

平成 22 年度第 3 回英語教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時：平成 22 年 12 月 18 日（土） 午後 4 時から午後 6 時 30 分まで
II. 場所：私立大学情報教育協議会 事務局 会議室
III. 出席者：山本涼一委員長、田中副委員長、山本英一委員、五十嵐委員、西納委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 資料

- ①「学び力」低下に懸念および論争デジタル教科書
- ②「卒業後 3 年新卒扱い」提言の意味は
- ③「就活」は大学 4 年以降に
- ④就職異変「すれ違う学生と企業」
- ⑤強い大学「IT 化どこでも教室」

V. 議事概要

(事務局) 5 年先でも実効性のあるような授業デザインを 2～3 例、1 例あたり A 4 版 2 枚程度で作成して欲しい。授業モデルに関しては ICT 活用こだわらずに開発を進めて欲しい。授業の基本はアナログ型であり、授業デザインの中で ICT を活用できるものがあれば私情協として紹介していきたい。私情協の活動を通じて、教育の社会的必要性を検証していきたい。

(委員長)

本委員会で作成した「到達目標」3 点に関して、それぞれの授業モデルを議論したい。各担当者からの報告に対して、委員からの発言を参考に最終案に向けて仕上げたい。

(議論)

以前に決定した英語学教育における学士力（英語学士力）の考察に基づき、授業モデル案の提示があった。

検討順に、その内容を記す。

到達目標 2：

「英語で情報を理解して考えをまとめ、対話を通じて情報・意見などの交換ができる。」

○口頭のプレゼンテーションと文章を書く作業を合わせ、発信型の教育を行う。

- ・シラバスとしては、前半 3 回目～8 回目の授業を口頭発表に、9 回目～14 回目をレポートの作成に充てる
- ・教員は様々なコミュニケーション方法を教授、助言する
- ・グループ単位でプレゼンをやっていくことにより、協働学習が可能となる

◇助言

- ・学内の留学生や他大学の学生を活用し、ピアレビューやモチベーションのアップを図る
- ・議論に際して「手続き」が必要なテーマを選択し、専門性が生きるように配慮することが大切である

- ・評価のポートフォリオを準備する必要がある
- ・レポート作成ではなく、プレゼンテーションとネゴシエーションに焦点を絞っても興味深い
- ・電子掲示板を使った異文化交流など、学生が自由に動ける環境で授業モデルを作成するのが望ましい
- ・地域にも授業を公開することにより、幅広く評価を求めることも重要である

到達目標 3 :

「専門分野の必要性に応じて、適切なレベルの英語語彙・英語表現を使用できる。」

○専門用語だけでなく、各ジャンルで学生が力を付けることができるように設計する

- ・専門教員と英語教員のコラボレーションをはかる
- ・正課授業は専門教員担当者が対面授業で、課外授業は英語教員担当者がICTを活用して行う

◇助言

- ・専門教員と英語教員がコラボすることにより、継続的な教育効果を期待できる
- ・専門教育の学びと英語教育の学びの一体化を図る
- ・CALL 教室ではなく、一般教室でPCがあれば授業が可能となる
- ・TA の活用とその業務が重要である
- ・専門教育分野でのこれまでの輪読形式から、ワークショップ形式に授業転換を図ることが可能となる
- ・専門教員と英語教員のミーティングが難しいであろう

到達目標 1 :

「英語の基本語彙や基本文法を基に、より高い技能と運用能力を身につけている」

○プロジェクト型教育を活用し、①社会性を持つ ②学生のコラボレーションを促進する ③デジタルコンテンツを活用する、という3本柱から英語教育を検討することにより、学生の社会貢献を促す。

- ・英語教育の絶対的時間が少ない→多読多聴で補う→キンドルや電子音声を活用し、学習時間を増やすことにより、底辺学生をトップ学生に仕上げる多読学習を促進する
- ・自分の読んだものをまとめて発表し、オンラインでの意見交換を行う
- ・自分が好きな題材を選び、自分のペースで読むことにより、学習効果を高めることができる
- ・ブックトークにより、単語の確認を行う
- ・A4版1枚程度に自分の意見をまとめる作業を重視する。その際には、紙媒体での提出は意義が大きい
- ・大量のインプットには大量の **graded reader** が必要であり、図書館とのコラボも必要であ

る

◇助言

- ・学生の自主活動を生み出す環境作りが大切である
- ・多読だけでは語彙のインプットとアウトプット能力の育成が不十分であるので、ある程度（3000語程度）の語彙をあらかじめ習得させておくことが大切である

VI. 結論

5年後の教育目標を作成する上で、今後は到達目標2および3に絞って進めていきたい。次回の会議までに到達目標2と3の改善案を作成し、意見交換を行う。なお、ICT活用条件は低めに設定し、ICTに比較的関心の低い教員や未体験の教員でも授業プランを理解して活用できるものを作成することが肝要である。

VII. 次回の開催日程

日時：平成23年2月15日（火） 11時より13時まで

場所：私立大学情報教育協議会 事務局 会議室

課題：本日の議論や助言に基づいて、担当者が到達目標2および3の授業デザインの修正案を作成し、次回の会議前に配布することとなった。次回の会議は、その修正案に基づいて行う予定である。